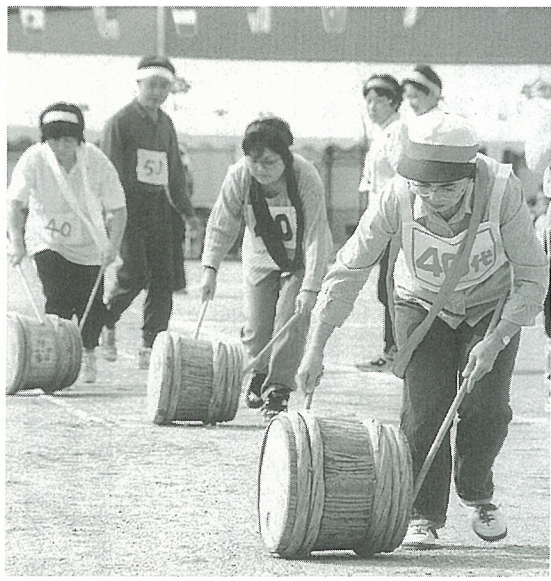


秋の青空に響いた大歓声

最後まで接戦が続いた分館対抗



当日は、さすがに晴れの特異日「体育の日」だけあって、ぬけるような青空、汗ばむような陽気のもと、竜丘地区市民運動会が多くの区民の参加を得て竜丘小学校校庭で盛大に行なわれました。

早朝知らせの打ち上げ花火、上川路八幡社からスタートし地区内に運動会を告げる小学生の聖火リレー、開会式に引き続き、すがすがしい朝の空気の中で全員でラジオ体操を行なう頃には気分も高まり、運動会の熱戦の火ぶたがきっておとされました。

恒例のメドレーリレーは十一種類の競技を百四十名の選手が皆さんがたすきでつなぐ、トラック競技ありフィールドでのリレーあり、校庭全体を使った大掛かりな種目で、途中何度も抜きつ抜かれつで応援団も手に汗を握る競技でした。

あちらこちらから選手の悲鳴と、明日の筋肉痛のことも忘れ必死に走る親の姿に思わず大歓声が上がっていました。

一般種目の「かけっこ」が始まり元氣一杯の走りが見られるようになると、いつの間にか観客も増え、最初の分館対抗種目の「メドレーリレー」になると活気にあふれた応援があちらこちらであがりだし、応援合戦にも熱が入り始めました。

午後に入り競技が進み、ふと回りを見まわすと五人の列ができ、かけ声と共にむかでの練習がもう始まっていた。大なわとびを終え得点板を見ると時又がトップその後を駄科、上川路が追い、年次むかでの勝利により、総合優勝が変わってしまったため、全員が総立ちでの大応援となり、校庭のながびとつにまよっていているのを体で感じる事ができました。

思わぬ大歓声が上がっていました。採点種目では、各分館から選ばれた精鋭が集まり練習の成果と、地元の期待にこたえようと力を入れた競技内容となり、午前中最後のオールスターリレーを終えた時点で、一位が同点二チーム、五位までも八点点差内にひしめく大混戦となり、どこか分館にも優勝の可能性が大きく残り、後半の盛り上がりへとつながりました。



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,845人
男子	3,367人
女子	3,478人
世帯数	2,065戸
(10年11月末現在)	

好友会 (ハオユウカイ)

中国帰国者とのふれあいを求めて

中国帰国者のための日本語学級への取組みが昨年度から始まり、いよいよ実際に運営委員の皆さんの手で作られる協働プログラムです。その名称は「好友会 (ハオユウカイ)」。「普通の友達以上に大切な友達」という意味だそうです。

中国は二月が正月という事で、二月には中国の正月料理教室を予定しています。さらに、帰国者の方々から希望の出ている日本語教室もスタートしていく予定です。同時に、帰国者の方々の訪問調査も続けて行われる予定です。



ごやかな運動会となりまして、通りでした。大会役員、体育部員の皆さんを始め、準備、進行に携わった皆さん大変ご苦労様でした。

- ※順位と最終得点は次の通りです。
- | | | |
|-----|-----|------|
| 優勝 | 駄科 | 八十九点 |
| 準優勝 | 上川路 | 八十九点 |
| 三位 | 桐林 | 八十四点 |
| 四位 | 時又 | 八十三点 |
| 五位 | 長野原 | 六十九点 |

竜丘の自然と歴史を学ぶ 市民大学講座

今年度で二十回を数える竜丘地区市民大学講座の第二講、第三講が、公民館を会場に開催されました。十月二十五日に開催された第二講では、伊那谷自然友の会会長、北城節雄さんを講師に招き「竜丘の自然が私たちに語っている」と題して、身近な昆虫や植物を通して私たちの地域の自然について学びました。



第三講 竜丘の自由画

先生のお話では、伊那谷は日本の東西南北の交差点であり、変化に富んだ多様な自然が存在するということとです。竜丘にも多くの自然が残されていますが、最近

十一月二十五日に開催された第三講では、緑ヶ丘中学校校長の北原更一さんを講師に招き「竜丘の自由画教育ってどんなもの」と題し、大正時代を中心に信州の図画教育で先駆的役割を果たした木下紫水の足跡について学びました。

校長はかつて竜丘小学校に赴任されていた頃、土蔵に眠っていた大正時代の自由画を整理されたご本人であり、実物の絵やスライドを使って当時の子供たちの絵を見せてくださいました。現代の子どもの絵も伸び伸びとした作品が多いのですが、当時の子どもの絵は、隔々まで細やかに神経が行き届いており、感性が凝縮している、語られました。手本の真似ではなく、子どもの感性を育てた紫水の思想、そして、このような、当時としては斬新な教育を認めた竜丘学校の人々や地域性というものは、日本に誇れる竜丘の宝だと語っていました。

十二月に入り、まわりの高い山には雪のたよりの聞かれるころになり、里に雪が降るのももうすぐでしょう。

ここ数年、エルニーニョ現象の影響なのか異常気象がつついており、これからは地球はどうなっていくのか心配になってしまっています。心配といえば、知らないうちに私達の体をむしばんでいるダイオキシンのことか思い浮かびます。

以前、私の家では台所などから出るごみは全部焼却炉で燃やしていたのですが、今ではビニール系のごみは燃やさないように分別して処理するようにしています。設備の整った焼却場で燃やしても火を着けた時と消す時はダイオキシンが発生してしまうということです。

また、生産する側もリサイクルしやすい素材に切り替えていってほしい。限りある資源を有効に活用していきましょう。

今の時代は、私達の育ったころと比べて、物は豊かで便利になっていますが、生活をしていく上での環境はかえって悪くなっているように思えます。次の世代のために、より良い生活環境を残してあげたいものです。

手作り文化とスポーツの祭り ずらりと並んだ作品の数々



見事な作品にしばし足を止め

◇ 今年の天候不順を忘れさせる様な、晴天に恵まれた十一月十四日、十五日に「竜丘地区文化祭」が、第四回を迎えた。「竜丘スポーツ祭」と同時に開催され、多くの人が文化の秋を満喫しました。

◇ 初日グラウンドでは、昨年残念にも雨で中止となつたキックベース大会が、小学生二十チームの参加により行なわれました。低学年と高学年に別れ一チーム六人でそれぞれ試合をしましたが、練習不足からか、な

かなかアウトにならない場面や、ボールのかわりにくつが飛ばハブニングもありました。しかし、子供たちの真剣なプレーに応援の声も沢山あがりました。

◇ 展示会場となった体育館北側には、「上川路菊の会」の皆さんが、日頃から丹精こめて作られた見事な菊が訪れた私たちを迎えてくれました。

◇ 竜丘地区文化祭の垂れ幕の掛かる会場には、地区民の学習、文化活動の成果が所狭しと並べられ、意識の高さが感じられました。

◇ 分館展示の中では、長野原が手持ちの花火の筒を展示し、同時に「長野原煙火会」による、夏祭り手作り花火大会の様子が上映されており、しばし足を止められました。

◇ 竜丘郵便局のコーナーでは、昨年同様に絵手紙教室が開かれ、壁に張り出された絵手紙を手に熱心な講座となりました。また、珍しい切手の展示と販売も行なわれました。

◇ スポーツ祭の二日目は、午前中に体育館でクロリティーとダーツ、午後にはグラウンドでベタンクが行なわれました。



ねらえ ホームラン

二十周年をむかえました 竜丘少年野球教室

昭和五十二年に青少年の健全育成を目的として発足した竜丘少年野球教室が二十周年をむかえ、記念事業(記念大会、祝賀会、記念誌発行)が行われました。

◆ 記念大会は、他地区を招待して、合計八チームで戦い、優勝は逃したものの準備優勝五回と活躍しています。他にも練習試合などあり年間三十試合以上こなすそうです。

◆ 毎年、各種大会へ十二回ほど出場して、今年度優勝一回、準備優勝五回と活躍しています。他にも練習試合などあり年間三十試合以上こなすそうです。

◆ また記念誌「二十年の歩み」は、歴代指導者からのメッセージや、年次ごとの様子と卒業生名簿が記載され、広告などは一切集めず内容のある立派なものです。

◆ 長野県青少年育成県民会議からは、二十年間続いているということで表彰を受けました。



電 丘

公民館活動を学びに 浜松の視察団来飯

去る十月二十六日、竜丘公民館の視察に浜松市教育委員会の方々がお見えになりました。

◆ メンバーは、生涯学習ボランティアの登録者三十九名と引率職員二名からなり、公民館事業への住民参画の現状についてということ、飯田市の各公民館の中から特に当公民館の現状を見に来られました。

委員長、大人の学校の運営委員長、公民館主事です。それぞれ昨年の活動記録を見ながら活動の現状と、住民の参加の状況を発表し、お昼にそれぞれ食事をしながらグループに分かれて活発に意見交換が行われました。

◆ とりわけ関心の高かったのは大人の学校についてでした。この活動は当公民館の大きな特色のひとつです。運営の仕方や参加の仕方、ボランティアあふれる講座の数々、クラブ活動の

状況など熱心に聞き入っていました。

◆ 質疑や食事中の交流会の中でやはり質問が出たのは各事業の参加者が年々減っているのではないか、とか事業自体が委員の負担になっていないかなどです。

◆ 浜松市でも飯田市同様の公民館の運営がなされておられ、今回訪れた方々はその中から選ばれて、ボランティア活動全体の

交流会のひとつ

◆ 今年度も、四月から始まった早起き野球、夜間ソフトボール、夜間バレーボールが終了しました。

◆ 早起き野球は、仕事に出かける前の試合とあって、チーム数も減少傾向ですが、さいわい大きなケガもなく日程を終了しました。結果は次のとおりです。

◆ 優勝長野原、二位モンスター、三位ギューチュー、四位シャトル、五位カルビー、六位ダックスでした。

◆ 夜間ソフトボールは、一日の仕事を終え疲れている中での試合ですが、雨で日程が遅れる中、実力伯仲の大混戦となりました。

◆ 優勝久保尻、二位ダックス、三位ベアーズ、四位シープホース、五位松葉、六位球道会、七位高島建設、八位長野原、九位グローリー時又でした。

◆ 夜間バレーボールは、忙しい仕事、家事、育児の時間をやりくりして集まる事もあり、熱戦の中にも和気あいあいとした雰囲気を感じられました。

◆ 優勝さくら、二位ひまわり、三位ドリームズ、四位ミラクルズ、五位ファミリィ、六位パワーズ、七位レインボー、八位フレンズ、九位ナイスミドルズ、十位青年会でした。

各スポーツクラブ シーズン閉じる

◆ 今年度も、四月から始まった早起き野球、夜間ソフトボール、夜間バレーボールが終了しました。

◆ 早起き野球は、仕事に出かける前の試合とあって、チーム数も減少傾向ですが、さいわい大きなケガもなく日程を終了しました。結果は次のとおりです。

◆ 優勝長野原、二位モンスター、三位ギューチュー、四位シャトル、五位カルビー、六位ダックスでした。

◆ 夜間ソフトボールは、一日の仕事を終え疲れている中での試合ですが、雨で日程が遅れる中、実力伯仲の大混戦となりました。

火の取扱い に注意



小林分団長

◆ 竜丘地区においては、今年五月の駄科駅舎の火災をはじめとして、数件の火災が発生しました。約二年前に無火災もとぎれてしまいましたが、火の恐さを再認識させられました。

◆ 生活がより便利になるほど火を使う器具も多様化し、水と同様、生活する上でなくてはならないものです。

◆ そして、家事・風呂・たき火等、取り扱い次第では火災を起こす事になりかねません。

◆ これから寒い季節を迎えるにあたり、ご家庭では特に暖房器具の台数も日に日に増え、火を取り扱う事が多くなりますので次の点に

◆ 注意していただきたいと思ひます。

一、暖房器具の取扱い。

二、風呂の空炊き。

三、天ぷら火災。

四、たき火の消火確認。

◆ 以上四点が主なものですが、加えて子供たちが火遊びをしないよう注意、指導していただきたいと思います。

◆ 火は全ての物を灰とし、何も残りません。火のそばを離れるときは、「必ず火を消す」という習慣を身につけましょう。

◆ 最後に本年度の標語は、「気をつけて はじめは すべて 小さな火」です。皆様の御協力をお願い致します。